

2025年度松下幸之助国際スカラシップ助成 「ブックレット〈アジアを学ぼう〉シリーズ」 単著執筆の進め方

松下幸之助国際スカラシップ ブックレット委員会 作成

松下幸之助国際スカラシップでは、帰国後のステップアップとして、留学研究成果をブックレット（単著・共著）として出版することへの助成および執筆サポートを行っています。本資料は「単著」に関するものです。執筆者は、この「進め方」に記された手順にのっとり、執筆を進めていくこととなります。

I) 出版の形態について

ブックレットシリーズは、スカラシップの出版助成をもとに、株式会社風響社が社の企画として行う商業出版です。執筆者は、著者として、版元である風響社と通常の出版同様の関係——著者は原稿を書き、版元はそれを書籍として作り販売する——を結びます。

したがって、版元は、通常の書籍制作と同様、執筆構想の段階から、原稿内容や形式等への助言を行い、また校正を経て刊行に至るまでのすべての行程を、著者と相談しながら進めます。

執筆者の出版にかかる費用負担はありませんが、執筆者への原稿料および印税の支払いはありません。

II) 執筆サポート体制について

執筆者にとって、自身の研究や教育、論文執筆のかたわら、慣れない一般向けの書き下ろし原稿を執筆し、一人で出版社と向き合い本を作っていく作業は困難です。そこで、本ブックレットの執筆・出版においては、以下の人員・組織によるサポート体制が整えられています。

(1) 松下幸之助記念財団

ブックレット出版助成、執筆者ミーティングへの参加・支援を行う。

ブックレット執筆者の選考、執筆者ミーティングへの参加と取りまとめ、ミーティングにおける内容相談、その他原稿執筆に関わる事柄についての相談窓口を行う。

こうしたサポートや出版社との共通事項（スケジュール調整、情報共有等）の連絡の窓口として、毎年、執筆者の中から取りまとめ役を選出する。

各執筆者のブックレットはシリーズとして松下幸之助国際スカラシップフォーラムにて一同に刊行します。そのために執筆者間で日程を合わせてミーティングを実施し、期日までに原稿の提出を目指します。また、刊行に向けて出版社との校正作業においてもスケジュール期限の厳守をお願いしています。以下の日程に従って執筆をすすめていただきます。以下の日程でミーティング参加や執筆・校正作業が難しい時期がある場合、事前に問い合わせ先や出版社へご相談ください。

＜2025 年度＞※下線部分は風響社との作業

- | | |
|-----------------|--|
| ・2025 年 7～8 月 | 執筆者募集 |
| ・2025 年 9～10 月 | 執筆者選考（必要に応じてヒアリング実施）・決定 |
| ・2025 年 10 月 | 松下幸之助国際スカラシップフォーラムに参加
<u>風響社との顔合わせ（事前にメール等で構想を伝達）</u> |
| ・2025 年 11～12 月 | <u>キックオフミーティング</u> （風響社も参加） |
| ・2026 年 1 月～3 月 | 随時ミーティングを実施（場合により風響社も参加、
例年、この間に 2 回程度執筆者ミーティングを実施） |
| ・2026 年 3 月末日 | <u>風響社への原稿提出〆切</u> |
| ・2026 年 6～7 月 | <u>初校</u> |
| ・2026 年 8 月 | <u>再校</u> |
| ・2026 年 9 月 | <u>念校、装丁等の確認</u> |
| ・2026 年 10 月 | 松下幸之助国際スカラシップフォーラム時期に刊行 |

2. 執筆の進め方

(1) 執筆者募集から決定まで

例年 7～8 月に執筆者募集、9～10 月に執筆者選考・決定の通知がなされる。

(詳しくは「募集要項」を参照のこと)。

(2) 執筆開始前の顔合わせ

執筆者は、毎年 10 月に開催される松下幸之助国際スカラシップフォーラムに参加し、風響社の編集者と顔合わせし、構想の相談と今後の手順の確認を行う。

フォーラムに参加できない場合は、各自日程を調整し、風響社との面談を行う。

(3) 構想発表

執筆者は、ブックレット委員会と日程を調整した上で、11～12 月にキックオフミーティングを行う。このミーティングでは、ブックレットの内容・構成案を風響社に提示し、執筆計画をまとめる。

(4) 執筆から原稿提出まで

構想発表後、執筆者は各自、執筆作業を進める。執筆の細則は、風響社の「執筆要領」による。風響社への原稿提出の締切は 3 月末日。執筆者はそれぞれ、風響社に原稿を提出する。

執筆者は随時、原稿提出までの間にミーティングを実施する。実施にあたっては、ブックレット委員会と日程および場所を相談する。ミーティングでは、進捗状況の確認、草稿の共有、意見交換、構想の検討等を行う。

執筆に際して、技術的・専門的な助言が必要な場合、風響社へ問い合わせをする。そのほか、執筆の進捗状況や執筆に関わる疑問・不安は、ブックレット委員会に相談することができる。

(5) 校正作業

校正作業は、出版社と執筆者の両者で行う。以下のスケジュール概要を確認すること。ただし、スケジュールは目安であり、個々の原稿や校正内容によっては変更の可能性もある。また、校正作業の日程において、都合がつかない時期がある場合、事前に出版社へ相談すること。

初校ゲラ（3 月提出の原稿に対する 1 回目の校正原稿）は、6 月～7 月頃に、風響社から各執筆者に直接送付される。初校ゲラには、編集者の視点からの修正点や変更の提案が付される。執筆者は、風響社のコメントや助言を参考に校正作業を行い、直しを入れた稿（ゲラ）を風響社に返送する。文中で用いる図や表、地図等についても、適宜風響社と確認し、データ提出等を行う。

再校ゲラ（2 回目の校正原稿）は、8 月頃に風響社から各執筆者に直接送付される。執筆者は、風響社のコメントや助言を参考に校正作業を行い、直しを入れた稿（ゲラ）を風響社に返送する。場合によっては、念校ゲラ（3 回目の校正原稿）による確認作業が追加される場合もある。9 月頃には、執筆者と風響社との間で装丁の確認（表紙、裏表紙、帯、デザイン等）がなされる。

執筆者は、進捗状況を執筆者間およびブックレット委員会との間で共有する。何か疑問や不安がある場合には、風響社に問い合わせるか、内容によっては同委員会が相談を受ける。

（6）刊行

例年 10 月に開催される松下幸之助国際スカラシップフォーラムに合わせて刊行する。

Ⅳ）問い合わせ先

- ・ 執筆に関するお問い合わせは原則として松下幸之助記念志財団ホームページの「お問い合わせ・ご要望」よりお問い合わせください。

以上